

総務省予算執行監視チーム第5回会議 議事概要

1 日時 平成22年8月25日(水) 15:30~16:15

2 場所 総務省共用801会議室

3 出席者

○外部有識者

有川 博 日本大学総合科学研究所教授

須藤 修 東京大学大学院情報学環教授

○総務省

内藤総務副大臣、長谷川総務大臣政務官、小川総務大臣政務官、階総務大臣政務官
福井大臣官房総括審議官(事務局長)、山田大臣官房会計課長(事務局次長)、
相馬大臣官房政策評価広報課長(事務局次長)

人事恩給局総務課長、行政管理局情報システム企画課長、行政管理局企画調整課長
自治行政局総務室長、自治財政局総務室長、自治税務局総務室長、情報通信国際戦
略局参事官、情報流通行政局総務課長、情報流通行政局情報流通振興課長、総合通
信基盤局総務課長、統計局総務課長、政策統括官(統計基準担当)室統計企画管理官

4 議事

- (1) 内藤副大臣挨拶
- (2) 行政事業レビューについて
- (3) その他

5 議事概要

(1) 内藤副大臣より挨拶

○現在、概算要求に向けて、徹底的に調査を行っており、必要性のないと認められる施策は廃止するなどの大胆な見直し、また将来の発展の糧になるような施策に対してはしっかり予算措置するなど、メリハリのある予算案づくりに取り組んでいるところ。

○行政事業レビューは、事業の実態を把握し、精査する手段の1つであり、概算要求の検討に反映させていこうとするもの。皆様方からの忌憚のない意見を賜りたい。

(2) 行政事業レビュー結果及び政策評課結果の概算要求への反映について、資料に基づき事務局より説明。

(主な意見等)

○政策評価は、どちらかというと抽象的で、行政事業レビューの方が、予算への反映をやりやすい。政策評価のあり方も見直していく必要があるのではないか

○政策評価が始まった時は、次の政策や予算に活かそうという狙いがあった。それがややマクロでそれらと結びつかない形で運用が進んでいるので、今の事業レビューのような手法を取り入れると良い。

○政策評価にかかるエネルギーが無駄にならないよう、整理が必要。

○レビューシートのみでは分析をすることは無理があり、専ら横断的な点検シートが参考になった。

○自己評価なので、事業によって取り組みにばらつきがあった。客観的な統一基準を設けるべきではないか。

○個別のボトムアップも重要だが、予算配分のウェートをどうするか、戦略的・政策的決定が必要であろう。

○総合評価の価格点と技術点について、自治体のIT調達で価格点の割合が高いため安かろう悪かろうになるケースが見られる。価格点と技術点のバランスについて工夫の必要があるのではないか。

○価格点は客観的だが、技術点は個人差がでてくるので、評価のルール化と透明性が大事なのではないか。

(3) その他(内藤副大臣より所見)

行政事業レビューについて目覚ましい成果を上げていると思うが、毎年ゼロベースで繰り返すのではなく、ノウハウを蓄積し一定の基準づくりを行い、予算づくり政策づくりをしていただきたい。